

小豆島一周歩き旅

平成 27 年 5 月 9 日～5 月 15 日(6泊7日)

(1570) F/T

[遍路再び]

昨春 四国八十八ヶ所の遍路一人歩き旅をした。その時、思い出にと旅の記録を作った。毎日、宿でその日の出来事や感想などをメモ書きにし、何枚かの写真とともに一冊のファイルに仕上げた。旅の記録は私にとって大切なものとなった。

去年は四国遍路開創 1200 年の記念の年でもあり、テレビで四国遍路の番組が数回放映された。記憶に残る寺院や遍路道、そして歩き遍路の姿を見ると無性に懐かしさを感じた。長かった歩き旅の記憶は私の心に深く、そしてあまりにも強く残った。

旅の記録を何人かの人に見てもらおう機会があった。その中に四国遍路と小豆島の八十八ヶ所の歩き遍路をしたことのある方があり、「四国遍路も良いが小豆島にも八十八ヶ所の霊場がある。四国遍路とは違った良さがあるから、ぜひ行ってみたいらどうか」と言われた。その時は費用などのことを考えると、とても行けるはずもなく深く考えようとしなかった。“遍路はもう終わったんだ” ……と。

それから数か月後、図書館で小豆島の歩き遍路が6泊7日の行程で可能であることを知った。意外であった。私は小豆島も四国と同じくらいの日数が必要と思い込んでいたのだった。6泊なら何とかかな・・・？

そうなると四国での歩き旅の数々の思い出・歩き遍路との交友・地元の人などから受けた接待・遍路宿での出来事など次から次へとよみがえってくる。いつしか私の心には、小豆島に行きたい思いが一杯になっていた。

家族も「行きたいと思った時がチャンスだよ。行ける時に行ってきな。」と承諾してくれた。そして小豆島のことを聞かせてくれた方に、小豆島に行くことを今年初め伝え、歩き遍路の資料を頂いた。

時期は5月の連休明けに予定し、想いは早くもまだ見ぬ遙かなたの小豆島へと飛んでいった。



最初の遍路宿にて（土庄）



小豆島と岡山間のフェリー（土庄湾）



手のベソームンの乾燥



海辺の道を歩く（小部）

[小豆島と霊場]

小豆島は香川県に属し、面積は約 170 km²、琵琶湖の半分程度の大きさ。周囲約 140km、人口約3万人の小さな島である。

主な産業は漁業のほかオリーブ栽培、そうめん、醤油・佃煮の製造など。観光地としても有名で寒霞溪(かんかけい)、オリーブ公園、大阪城築城残石公園、二十四の瞳・映画村などがある。

小豆島にも弘法大師空海ゆかりの八十八ヶ所の霊場があり、数百年の昔から大師信仰が盛んで現在に至っている。四国遍路に行けない人の為に島の霊場ができたと言われている。四国と違い小さい島であることから、霊場の規模も小さいものが多い。住職が常駐している寺院は 30 ヶ所で、あとは小さなお堂や庵、そして山岳の霊場である。

一日で数多くの霊場を巡ることとなる。歩き遍路の総歩行距離は約 150km である。



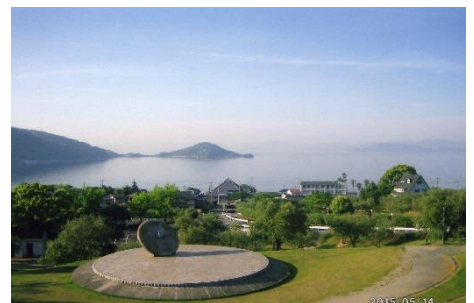
朝から快晴（小部）



碁石山の修行大師



二十四の瞳・岬の分教場



早朝のオリーブ園

[道中記]

● 小豆島まで

5/8 22:00 新潟発大阪行き的高速バス
大阪から岡山まで新幹線
岡山からバス・フェリーを乗り継いで
5/9 10:40 小豆島に上陸

● 歩き始めから雨に降られての旅となった。その後も台風が近づいて来た影響で雨、風の日と天気の良い日の繰り返しのよう日が続いた。

しかし、時期は5月のことであり雨の日でも寒いことはなく、むしろ毎日暑い中、汗をかきながら歩いた。

霊場は思っていたより小さなお堂や庵が多く、地元のお年寄りの女性が生活の一部のように堂守として世話をしていた。

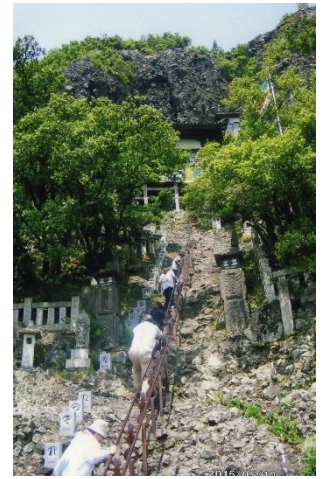
島を一周するため、毎日、瀬戸内の海を右に左に眺めながらの旅。

時期が遅いのか遍路の姿は少なく、まして歩き遍路はほとんど見かけない。

時折、地元の高齢者と挨拶を交わす程度の静かなひとり歩き旅であった。

道は車道を歩くことが多いが小さい島といえ、やはり山越えや岬の峠越えもある。昔ながらの遍路道が残っているところもあり遍路の島であることを実感できた。

- 毎日多くの霊場を巡ることから参拝は簡略にして駆け足で回るようになってしまった。その分観光名所にも足を延ばし、気ままな旅を楽しむことができた。特に印象に残ったのは壺井栄の小説や映画で有名になった二十四の瞳の舞台となった岬の分教場である。小さな木造の校舎、長い年月が経過した古びた教室、なんと小さな机と椅子、子供たちが雑巾掛けをしたであろう隙間の目立つ廊下。
そっと一番前の椅子に腰掛けてみた・・・
ここで昭和46年まで子供たちが勉強していたのかと・・・
自分の子供のころを思い浮かべながら、しばしタイムスリップした感触にひたった。



山岳霊場（笠ヶ滝）

- 遍路相手の宿は数が減少していた。多くが車を利用するようになったことが原因のようだ。それでも泊まった3か所の遍路宿は歩き遍路のことを理解して心のこもった接待をしてくれた。気兼ねをすることなく、心休まる気がして泊まって良かったと思った。

- 一宿だけであったが、歩き遍路をしている同年代の夫婦と同宿になった。私と同じく昨年四国遍路を歩いたことがあり、一緒に夕食を食べながら遍路話ができただけのもやはり遍路宿ならではのことであった。

いくつかの失敗もした。道を2回も間違えすっかり落ち込んだこと、安易な気持ちから油断して足を痛めたこと、宿泊予定日を間違えて宿に予約の電話をしていたこと、洗濯をした際に靴下を片方失くしたこと・・・
それも今となっては旅の良い思い出となった。



静かな瀬戸内の海（田の浦）

- 小豆島も例外にもれず人口が減少している。若者の姿は少なく高齢者の姿が多い。いくつかある港とその周辺だけに人影が見受けられた。山間部を歩くと朽ち果てた民家が生い茂った草木に呑み込まれる姿も目にした。また廃虚となった巨大なホテルが風雨に晒されている姿も何とも痛ましいものであった。人の世の無常さを考えずにはいられなかった。

動物の被害にも困っていた。特に猪と鹿が増えて農作物を食べ荒して困るとお婆さんが嘆いていた。実際、道中においても至る所で猪が掘り返した形跡を目にした。ほとんどの畑には金網やネットで囲いがしてあった。



風穴庵への遍路道



中山地区の千枚田

[まとめ]

- 小豆島は思っていたより山あり峠越えのある歩きがいのある島であった。

小さな島であることから、毎日瀬戸内の海を眺めながら歩いた。

春の海風に吹かれ、気ままな一週間の歩き旅であった。

土地の人情に触れ、時には雨・風にさらされ、道に迷ったり・・・と。

また、肩に感じるザックの重さ、足の疲れに一年前の遍路旅を思い起こすこともあった。

心残りは花の時期が過ぎていたこと、そしてろくな参拝もせず霊場を駆け巡るあわただしい行程になったこと。

しかし、観光地をいくつか見学できたことは良かった。

特に岬の分教場。今にも子供たちが現れるような気がした・・・

四国遍路とは違った静かな私一人の小豆島一周歩き旅であった。

帰りは来た時の逆の行程で予定通り、5/16 早朝、新潟に戻った。



舟で行く遍路一行(?)

参 考

月 日	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15
歩行距離	13 km	30 km	26 km	21 km	18 km	23 km	14 km
歩行数	21,795 歩	41,182 歩	41,381 歩	34,756 歩	36,083 歩	45,016 歩	23,382 歩
霊 場	9ヶ所	20ヶ所	10ヶ所	12ヶ所	14ヶ所	15ヶ所	14ヶ所

(注)・歩行距離はモデルコースの最短距離数。実際は道間違いや観光地巡りでもっと多い距離を歩いた。

・公認霊場 94ヶ所(88ヶ所+番外6ヶ所)

(おわり)